

R

KANSAI
UNIVERSITY
NEWSLETTER

Man is a Thinking Reed.

reed

No. 37

May, 2014

関西大学ニュースレター
発行日：2014年(平成26年)5月28日
発行：関西大学 総合企画室広報課
大阪府吹田市山手町3-3-35
〒564-8680 TEL.06-6368-1121
<http://www.kansai-u.ac.jp/>

この伝統を、超える未来を。



■リーダーズ・ナウ ー5

在学生— 法学部4年次生 黒澤 花衣 さん
法学部2年次生 竹内 美沙保 さん
卒業生— シンガー S-KEY-A(中島 早紀)さん

■研究最前線

舞踊教育の研究
ダンスの共同創作を通じた学び ー7
人間健康学部 — 原田 純子 准教授
ネットワークポリマーの研究
放熱性の高いエポキシ樹脂を開発 ー9
化学生命工学部 — 原田 美由紀 准教授

■トピックス [学内情報] ー11

関西大学創立130周年記念事業
社会の要請に応える学園づくりを目指して
共通教養科目に「次世代グローバルリーダー」の
育成を目指した科目群を設置

国際部・認定留学プログラム

オーストラリア・クイーンズランド大学での
グローバルキャリアアッププログラムが始動

■社会貢献・連携事業 / 地域連携 ー13

大阪府堺市との地域連携事業から誕生
アスリートのための「冷凍お餅『和neチャージS』」

AR津波ハザードマップ

津波の恐怖を「見て」体感できるアプリを開発
「関西・ふくしま大学生交流事業」報告会・交流イベント
関西と福島県の大学生が福島県の今後を考える

■関大ニュース ー15

堺キャンパスが「おおさか優良緑化賞奨励賞」を受賞 ほか

■対談 大塚 真帆 招徳酒造株式会社 杜氏 × 楠見 晴重 学長

◎ 女性杜氏と語る ものづくりに懸ける“覚悟”と“希望”

伝統の酒造りの現場でも輝く 理系女子の技術と感性

MAHO OTSUKA



・学長
楠見晴重

・招徳酒造株式会社 社員
大塚真帆

●女性社員と語る ものづくりに懸ける「覚悟」と「希望」
伝統の酒造りの現場でも輝く
理系女子の技術と感性

創業1645年、京都・伏見の招徳酒造は、米と水のおいしさを生かした味わい深いお酒で多くのファンを持つ蔵元。大塚真帆さんはこの老舗の酒造りの現場を取り仕切る社員。伏見のお酒に欠かせない名水について地盤工学の立場から研究を深めてきた楠見晴重学長が、大学で農学を修めた理系女子(リケジョ)である大塚さんに、伝統的なものづくりの現場の今や、2児の母として働く環境、おいしいお酒の追求に挑む心境などを聞いた。

◆社員の仕事を一生懸けて極めると決めた

楠見 基本的なことですが、社員はどのような仕事をするのか教えていただけますか？

大塚 社員は簡単に言えば、酒造りのリーダーです。日本酒の世界には「酒屋萬流」という言葉があります。例えば、2つの蔵が同じ米、同じ水を使ったとしても、出来上がるお酒は違う。どういう装置で造るか、どういう造り方をするか、やり方によって味が変わるのが日本酒の特徴です。どの材料を使い、どういう味のお酒を造っていくか、その方向性を決める役回りをするのが社員です。社員がいなくてお酒の仕上がりにブレが出てしまいます。酒造りの各工程で、社員はこの方向は目指すおいしさに向かっているのか、間違っているのかを判断し、より良い方向へ導かなければいけません。科学的なデータから判断できる部分もありますが、最後は結局、五感を使って判断する官能評価になってきます。社員は正しい判断ができる感覚を常に持っていないとダメですが、これは簡単ではありません。

楠見 大塚さんはどうして社員を志されたのですか？

大塚 働くからには、一生を懸けて上を目指し続けたいというやり甲斐のある仕事に就きたいと思っていました。酒造りは奥が深く、簡単に技術を習得できるような世界ではないことに魅力を感じました。一蔵人として日本酒造りに携わりたいという気持ちだけでこの世界に飛び込みましたが、まさか数年で社員になるとは思ってもいませんでした。

楠見 これだけ情報が溢れているのに、今の学生はやりたいことをなかなか見つけられないようです。就職活動の時期になって慌てて調べたところで、自分のやりたい仕事や会社が分かるものではありません。もっと積極的にいろいろなことを見て、何をやりたいのかを自分で見つけなさい、いつも言っているのですが、自分で探さず少し耳にただけの情報に流されて、誰もが知っている会社ばかりに行きたがる学生も少なからずいるようです。大塚さんのように規模は小さくても優れた会社を見つけて飛び込む学生はなかなかいません。

大塚 私の場合は大手の酒造メーカーに行く考えは全くありませんでした。大手では、工程の一部にしかかかわれないだろうと思ったからです。本当に酒造りをしたいと思っていたので、小規模でも全部の工程にかかわれるような酒造メーカーを目指して就職活動をしました。

楠見 その選択をしたおかげで、普通はなかなかない社員にもなれたわけですね。

大塚 そうですね。本当に運良く。しかし、私は未熟なうちに社員になってしまったので、最初は失敗もありました。周りの方々が温かく見守ってくださったので、なんとか続けさせていただくことができて、今に至っています。

◆女性の覚悟を制度が支え、成果を生む

楠見 伝統的な男社会である酒造りの世界に飛び込まれて、女性としてご苦労はありませんでしたか？

大塚 肉体的なしんどさでつらいと感じたことはありませんで



した。しかし、女性だからとの配慮だったのかもしれませんが、最初は力仕事に加わらせてもらえず、分析や事務などのデスクワークもやりながら酒造りをしていたことにストレスを感じることはありました。

楠見 私が専門にしている土木工学の分野も男性中心の伝統が強く、トンネルの建設現場には女性はいれないということが最近までありました。それでも、トンネルや地下空間を建設あるいは設計したい女性もいるわけです。今は土木建設の現場で活躍する「ドボジョ」と呼ばれる女性も増えましたが、その先駆けとなった教員に話を聞くと、現場に飛び込んだときにやはり理想と現実の違いに戸惑ったと言っていました。大塚さんは、大学院では何を専攻されていたのですか？

大塚 農学研究科の作物学研究室にいました。醸造とは全く畑違いで、稲を水耕栽培して生理を調べる研究をしていました。

楠見 大塚さんはいわゆる「リケジョ」ですね。

大塚 確かに私はリケジョということになると思います。高校の時から理系に進み、女性が圧倒的に少ない環境でずっと過ごしてきました。本来、理系も文系も男女が半々というのが自然なバランスだと思うのですが。

楠見 理系の世界に男性と違った感性を持つ女性が入っていくことは、現場を良い方向に変えていくと思います。本学でも理系学部を志望する女性が増えています。就職で有利になるという期待もあるのだと思います。ただ、残念なことに彼女たちが仕事に就いたときには、仕事と結婚・出産を両立する難しさなど、まだまだ現実の厳しさを実感することになると思います。大塚さんは結婚されて、お子さんもおられますね。大変ではありませんか？

大塚 パートナーや両親、共に働く会社の人たちなど周囲の理解、協力が絶対に必要です。それがなければこなせないといひしひと感じています。

楠見 京都大学の稲葉カヨ副学長は、男女共同参画担当と女性研究者支援センター長を兼務されているのですが、「ロレアル・ユネスコ女性科学賞」を受賞された際のインタビューで、女性研究者が育つ条件として、「まず、本人の覚悟が重要で、その上で大学などの支援体制が整えばサポートが生きて活躍できる」という趣旨の発言をされていました。

大塚 私は「結婚して仕事を辞めるなんてもったいないことはするな。ずっと続けられる仕事をやりなさい」と両親からずっと言われて育ったので、私の中では一生懸けて仕事をするのは、当たり前になっていました。そういう職業観の中で「覚悟」は自然に持つことができたように思います。

今の社会の中で仕事と家庭を両立するためには定時にちゃんと仕事が終わるなど、職場の体制が整っていないと女性にとっては厳しいと思います。私が入社した時はまだ昔ながらの勤務体制で、冬だけ会社に泊まり込んで酒造りをする蔵人さんと一緒に仕



仕込みに使う発酵タンクがずらりと並び、冬には蔵中に新酒の香りが立ち込める



理系の世界に男性と違った感性を持つ女性が入っていくことは、現場を良い方向に変えていくと思います。本学でも理系学部を志望する女性が増えています。

事をしていました。蔵人さんのやり方は、社員が出社するずっと前の朝5時とか、早い時には3時半ぐらいから仕事を始めていました。その方々が高齢で引退し、完全に社員だけで酒造りをするようになってからは、仕事の段取りを大幅に変えました。今は冬の仕込みの時期でも朝7時半から準備を始め、夕方5時に終わるようになり、男性も夜は家族との時間を過ごして、再び朝に出勤してくるという働き方をしています。昔の酒造りのやり方からすれば、本当に想像できないような変わり方だと思います。

楠見 昔ながらの伝統産業でも、今の時代に合わせた男女共同参画、ワークライフバランスを考えた勤務体制が取り入れられてきているということですね。本学でも男女共同参画を推進する委員会を設けて取り組みを始めました。女性教員も増やしたいと考えています。女性教員比率は、まだそれほど高くないのですが、最近5年間の増加率は私立大学ではトップクラスです。しかし、例えば機械、物理、電気などの女性研究者が少ない理系分野ではなかなか増やすのが難しいです。これからそのような学科に女子学生が増えるように工夫をしようと考えています。女性の活用は日本全体の課題でもあるだけに、本学においてもしっかり取り組まなければいけないと思っています。

◆最新の知見と技術が、酒造りの現場を変える

楠見 私は地下水の調査で伏見酒造組合のお手伝いをさせていただいており、伏見の地下水は鉄とマンガンがほとんど含まれない中硬水であることが分かりました。伏見よりもう少し南に行きますと、鉄とマンガンがよく出ます。理由は分かりませんが、この辺りだけ含まれていないのです。素人考えですが、酒造りには鉄とマンガンが大敵ではないでしょうか。伏見では室町時代からお酒を造っています。この地を酒造りの場所に決められた昔の人は本当にすごいと思います。

大塚 当社では敷地内の井戸から地下水を汲み上げて仕込水に使っています。その井戸水は確かに柔らかくまろやかで、出来上がるお酒も優しい味に仕上がります。それは、本当に水の力だと思います。昔から“伏見の女酒”といわれる通りに、『はんなり』という京言葉がびったりのお酒に自然に仕上がります。

楠見 酒造りは経験がものをいう伝統的な職人の世界というイメージがありますが、最新の科学的な知見や技術を取り入れる動きは活発なのですか？

大塚 最近は素晴らしい醸造機械や技術がどんどん出て来ていて、そのような情報にアンテナを張っておかないと乗り遅れてしまいます。大学の先生方との連携も業界として盛んに取り組んでいます。また、近頃は杜氏・蔵人や社員が集まる勉強会がよくあるので、皆でいろいろな蔵の情報を収集して、当社で取り入れられるかを検討しています。

酒造りの業界では昔から兵庫の但馬杜氏、福井の糠杜氏などの杜氏集団が全国にいくつもあって、それぞれの杜氏集団の中で独自のノウハウが伝承されてきました。そのノウハウは他の杜氏集団に明かされることはなく、杜氏集団間での情報のやり取りはほとんどなかったのではないかと思います。しかし、昨

▼仕込水に使われているのは蔵の敷地内にある井戸から汲み上げた伏見の名水



今では酒造りの担い手が昔ながらの杜氏集団・蔵人から社員へと、どんどん代わってきている過渡期です。また、どの酒蔵も今は日本酒離れに対する強い危機感を持っています。そのような状況の中、ノウハウを秘密にするよりも積極的に他社とも共有し、業界全体で技術を底上げしていかなければならないという考えが酒造りの若い担い手の間にはあるのだと思います。

◆世界にSAKEの魅力を伝えたい

楠見 欧米で日本酒の消費が拡大しているそうです。さらに近年では東南アジアでも日本酒が飲まれるようになってきたと聞きます。日本酒メーカーも世界戦略を積極的に進めてはどうかと私は思うのですが、日本酒の国際化をどうお考えですか？

大塚 幅広い方々に日本酒に親しんでいただけることはすごくうれしいです。酒造りは日本が世界に誇れる素晴らしい技術です。和食とお酒の組み合わせも世界の方に楽しんでほしいですね。

楠見 熱燗は外国人の方にはなじみが無いようですね。

大塚 確かに燗は日本酒独特の飲み方です。

楠見 招徳酒造のお酒は冷酒向き、それとも燗酒向きですか？

大塚 当社のモットーは「燗でよし、冷やでよし」です。どちらでもおいしく飲めるお酒が目指すところです。近年、吟醸や大吟醸など香りの華やかなお酒が人気なのですが、そのようなお酒は燗よりも冷やがおすすです。燗にすると香りがきつすぎるからです。燗でも冷やでもおいしいのは、昔から使われている酵母を使ってオーソドックスに造るお酒です。香りの華やかなお酒に比べると目立ちませんが、いわゆる「味の調和した」燗でも冷やでもおいしく飲めるお酒の魅力を消費者に伝えていきたいと思っています。

◆日本酒本来のおいしさを追求し続ける

楠見 酒造りのどこに楽しさややりがいを感じますか？

大塚 酒造りはとても時間のかかる作業です。夏から「今年はどういうチャレンジをしよう」とか、「より良くするためにどうしたらいいか」を皆で考え準備を始めます。また、私の場合はラベルのデザインを夏にしています。そういった準備をしておいて、酒造りが本格的に始まる冬を迎えると、計画していたことを実践し、春になると新酒が次々と出来上がってきます。お酒の味が完成するのは、熟成を経て、最後に商品になった時点



純米酒にこだわり続ける招徳酒造のお酒。「四季の純米吟醸ボトルシリーズ」(写真左)をはじめ、ボトルやラベルのデザインは大塚さん自らが手がける▶

なので、冬にトライしたことが実際に形になって現れるのは、1年後になることもあります。そのような長いサイクルの最後に、目指していた味ができたか、昨年よりおいしいお酒ができたかなど、出来栄を確かめる時がこの仕事のやりがいを一番実感する瞬間です。

楠見 これからどのようなお酒を造りたいですか？

大塚 伏見にはおいしい水がありますし、当社が契約している農家は良いお米を作ってくれています。この素晴らしい素材を生かしたお酒にすることが、杜氏として私の務めだと思っています。一口にお酒のおいしさといってもいろいろあると思いますが、お米から生まれる豊かなうまみや酸味といった日本酒本

働くからには、一生を懸けて上を目指し続けていけるようなやり甲斐のある仕事に就きたいと思っています。酒造りは奥が深く、簡単に技術を習得できるような世界ではないことに魅力を感じました。



来のおいしさに惹かれてこの世界に入ったので、当社がこだわってきた純米酒というカテゴリの中で、これからもそのおいしさを追求していきたいと思っています。

切実な抱負を申し上げれば、10年、20年後も生き残っていたい。生き残るためには、造るお酒の質をもっと上げていかなければいけません。お客様に喜んでもらえるような時代に合ったお酒を提供していくことが大事だと思います。そのために何ができるかを常に考えて精進していきます。

大塚 真帆 (おおつか まほ)
1975年神奈川県生まれ。2000年京都大学大学院農学研究科修了。同年、1645年創業の老舗蔵元である招徳酒造株式会社入社。05年より杜氏を務める。「純米酒 嵯峨紅梅」が「ワイングラスでおいしい日本酒アワード2012」金賞、「招徳 純米原酒生もと」が「インターナショナル・サケ・チャレンジ2009」生もと・山鹿部門トロフィー（最高賞）受賞。デザインも手がけた「四季の純米吟醸ボトルシリーズ 夏の戯れ」は「ガラスびんデザインアワード2007クロワッサン賞」を受賞した。

楠見 晴重 (くすみ はるしげ)
1953年大阪府生まれ。78年関西大学工学部土木工学科卒業。81年同大学大学院工学研究科博士課程後期課程中途退学。82年関西大学工学部助手。90～91年英国 Imperial College 留学。関西大学専任講師、助教授を経て、2002年教授。07年環境都市工学部教授となり、同年4月から学部長に就任。09年関西大学学長に就任。公益財団法人大学基準協会理事、一般社団法人日本私立大学連盟常務理事、国土交通省道路防災ドクター、土木学会フェロー会員。主な共編著書に「地圏環境情報学 地下を診る最先端技術」[アジア古都物語 京都一千年の水脈―]など。

■リーダーズ・ナウ [在学生・卒業生インタビュー]

応援団に初の女性団長誕生

学ラン姿の紅一点もリーダー部で活躍中



●法学部4年次生
黒澤 花衣 さん



法学部2年次生
竹内 美沙保 さん

応援団といえば、パンカラ、男らしいイメージが強い。しかし現在、関西大学応援団を率いるのは創設以来初の女性団長・黒澤花衣さん。また、リーダー部にも紅一点・竹内美沙保さんが学ラン姿で奮闘中だ。

「フレイ、フレイ、カ・ン・ダイ！」

張りのある声が吹奏楽と共に会場に響き渡る。チアリーダー部と学ランのリーダー部員を従えて、凛々しい羽織袴姿で指揮を振るのは、関西大学応援団第92代団長・黒澤花衣さん。総勢100人を超える応援団を率いる初の女性団長だ。

応援団はリーダー部、吹奏楽部、バトン・チアリーダー部から構成されている。黒澤さんはバトン・チアリーダー部に所属。団長は応援を統率する役割のリーダー部から選出されるのが通例だが、黒澤さんの学年にはリーダー部員がいなかった。「第92代の団長を誰がやるか？」を話し合う中、既に副団長候補の役職に就くはずであった黒澤さんが手を挙げて、重責を引き受けた。

応援団の活躍の場は幅広い。入学式や卒業式、オープンキャ

ンパスなどの大学の公式行事にその存在は欠かせない。関西学院大学との総合関関戦、野球をはじめとするスポーツの試合や大会では、応援席を一つにまとめ、熱い声援で選手たちの活躍を後押しする。毎年9月に開催される関西四私立大学応援団連盟による公開イベント「四雄の宴」、関西大学統一学園祭のフィナーレを飾る「後夜祭」などのステージ活動もある。今年はソチオリンピックに出場した体育会アイススケート部の高橋大輔さん、町田樹さんの壮行会や応援会もあった。

黒澤さんは昨年末の幹部交代式で団長に就任して以来、身長153センチと小柄な体格を感じさせない堂々とした団長ぶりで団員をまとめる一方、演舞においても会場中の視線を一身に集めてきた。

その勇姿に「美しさと逞しさが共存していて、私たちが誇らしいです。団長はリーダー部出身ではないことが、かえって他パートから見たリーダー部員の姿など、今まで気付いていなかった部分にハッとさせられることも多いです」と話すのは2年次生の竹内美沙保さん。リーダー部でただ1人の女性部員だ。大学入学時、新入生歓迎演舞でリーダー部員の袴姿にあこがれて入団を決め、1年間が過ぎた。「それぞれの応援や舞台は、その目的や客層に合わせて構成や演舞を変えるなど、多くの準備期間と工夫や経験がかかわりあっているのだと、作り手の立場になって感じられるようになりました。卒業された先輩方からの指導や励ましも頂きながら、迫力のある指揮を振り、皆さんに元気を届けていきたいです」と竹内さんは話す。

黒澤さんを中心に今年度の団の方針を「想」と決めた。「日々の活動で出会う人との縁を大切に一つひとつの行事に“想い”を込めて全団員全力で頑張っていくことと、我々の活動が多くの方の“想い”に支えられていることを忘れずに、常に感謝の気持ちを持って活動することの2つの意味があります」と黒澤さんは説明する。「自分が先頭となって実行する姿を見せることで、団員が“想”の方針に基づいて行動できるようにしたいです。団員全員が頼りにしてついでくる、そんな団長像が理想です。伝統を守りつつ、新しい挑戦を続け、いつまでも上昇していく応援団になるよう励みます」と今後への決意を語った。



気迫のこもった応援の型をとる黒澤さん(左)と竹内さん



待望のファーストシングルが好評 伸びのある透き通った歌声で魅了

次世代の実力派シンガー

●シンガー

S-KEY-A (中島早紀) さん 一文学部 2008年卒業

今年1月末に自身初の両A面シングルCD『I know... / Gift』を発売、ライブ活動も意欲的に行っている関西大学出身のシンガーS-KEY-A(中島早紀)さんへの注目が高まっている。切なく憂いを帯びながら、強く伸びのある歌声に魅了される聴き手が増え始めているのだ。

S-KEY-A — スキア

■1985(昭和60)年大阪府生まれ。本名 中島早紀(なかじま・さき)。R&B、ポップスを得意とするシンガー。2004年追手門学院大学大手前高校卒。2008年関西大学文学部卒業。2006年『Boom Boom Boom』でiTunesデビュー。他に『アイシテル』『Okay』を配信。2014年シングルCD『I know... / Gift』をリリース。関西・首都圏を中心に精力的にライブ活動を展開。ポイストレーナー、作詞家としても活躍している。UNORTHODOX所属。

シンガーを志したのは中学2年。宇多田ヒカルやマライア・キャリィに衝撃を受け、ポイストレーニングのレッスンを開始した。高校1年の夏から1年間、アメリカへ留学した際に、コーラスのクラスを選択した体験は、歌への気持ちを更に強くした。帰国してからは、シンガーを目指して数々のオーディションに挑戦した。その1つ、『MTV STAR TOUR』が彼女の存在を全国区に押し上げた。優勝こそ逃したものの7人のファイナリストに最年少で残り、実力派の次世代シンガーとして音楽業界に強い印象を残した。

関西大学に進学すると、学業と音楽活動に打ち込む毎日さらには多忙を極めるようになった。レッスン、ライブ、打ち合わせの連続。作詞も始めた。もちろん大学の講義もある。ライブのために夜行バスで大阪と東京を往復し、徹夜明けで講義に出ることもあった。2006年には安室奈美恵などのプロデュースも手がけるNao' ymtとコラボレーションした曲がiTunesで配信され、R&B/ソウルチャートで3位のスマッシュヒットを記録した。しかし、願っていたメジャーレーベルからのソロデビューには至らなかった。4年次になってもシンガー以外の進路は考えられず、就職活動は全くしなかった。自身が作詞も手掛け、言葉に興味があった彼女は、阿久悠の歌詞についての研究というユニークな卒業論文をまとめて卒業した。

しかし、卒業してしばらくすると音楽から少し距離を置くようになってしまった。

「ティッシュ配りのアルバイトをしていた時に、社会人になっ



た大学の友人がスーツ姿で通り掛かったんです。精神的に疲れていたのかもしれないけれど『私、何やってるんだろう？卒業したのに、まだ親に迷惑をかけて。一回ちゃんと働いてみよう』と思って、新聞社で週5日の受付の仕事を始めました。遅ればせながらの社会人生活は新鮮だった。大学時代にはできなかった女友達と遊びに行くなど普通のことですごく楽しかった。しかし、音楽の夢が彼女の中から消えることはやはりなかった。社会人4年目の頃、ポイストレーナーの仕事の声が掛かり、タレントスクールで子供たちを教えることになった。

「夢に向かってまっすぐな子供たちに『あきらめたらあかんぞ！』と励ましているうちに、生徒の見本として自分自身がちゃんと頑張りたいという気持ちが出てきたんです」彼女自身が音楽に前向きになると、待っていたかのようにかねてから出たかったFM802のイベント「MINAMI WHEEL」の出演が決まり、やがてCD発売へと物事は自然に動き出していった。今回のシングルのプロデューサーである石井健太郎氏は、「ポジティブな思考が歌に現れている。音楽を全身で受け止めて表現する、信頼できる歌い手」と彼女を絶賛する。順調に再始動した歌手活動に加えて、ポイストレーナーとしても実力を発揮し、プロとして活躍する教え子も出てきた。作詞家としてもEXILEの妹分グループFlowerに昨年、詞を提供した。「今やるべきことをやっていきたい。目標は音楽を続けていくこと。もう音楽をやっているだけで『生きている』と感じるんです」S-KEY-Aさんが立つこれからの人生のステージには、きっと素敵な歌声が響くだろう。



■研究最前線

舞踊教育の研究

ダンスの
共同創作を通じた学び

共感力・表現力を育てる

●人間健康学部

原田 純子 准教授



学生時代、「ジャンヌ・ダルク」を題材とした創作ソロダンスで埼玉県舞踊協会賞を受賞した原田純子准教授。今、学生の創作作品の指導、地域の中高生を対象としたワークショップなどを行いながら、ダンスの創作を通じた人間関係の発展、表現力、コミュニケーション力などの育成についての考察を深めている。

■身体表現の研究は、理論と実践を両輪に

—原田先生のゼミでは、学生は論文を執筆するだけでなく創作ダンスの上演も行うのですね。

私のゼミでは身体表現を楽しくまじめに学び、実践しています。関西学生舞踊連盟発表会、全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸)などのコンクールにも参加し創作ダンスを発表しています。舞踊教育の分野は頭の中だけでなく、理論と実践の両輪を走らせなければなりません。

この春、初めてのゼミの卒業生を送り出しました。彼ら1期生は3年次生からの2年間の活動の集大成といえる卒業公演を、



2013年11月に千里山キャンパスのKUシンフォニーホールで開催しました。この公演では、ゼミ生と一緒に「創作ダンス Performance Theater KAYMO(カイモ)」が、「アーティストックムーブメント・イン・トヤマ2013」で特別賞を受賞した作品などを含む創作ダンスを披露しました。KAYMOは私が担当するスポーツ方法実習Ⅶ(ダンス)の授業の延長から結成された準登録団体で、こちらも私が指導にあたっています。

—創作ダンスの指導はどのようにするのですか？

私が考えたものを学生が覚えて踊るのではなく、学生自身がどう表現するかを考え、自分たちで動きを創って踊ります。といっても、「自由に創りなさい」と学生に丸投げするのではなく、時々ヒントを示して、作品完成に至る道筋をつけるようにしています。

例えば、スポーツ方法実習Ⅶ(ダンス)では、「風」や「水」あるいは「かゆい」というテーマに対して、学生はグループを組んで自由に想像を広げ、動き創りをします。「水」から氷や雪の世界を表現するグループもあれば、海賊の世界を描くグループもあります。突拍子もないものが出てきても、決して否定することはありません。

—ダンス経験のない学生でも創作できますか？

ゼミにもKAYMOにも以前からダンスをしていた学生はほとんどおらず、ダンスとは無縁のスポーツをしてきた学生ばかりです。バレエのようなきれいな踊りでなくても、ダイナミックなジャンプやターンなど、彼らの持つ身体能力と創造力を最大限に舞台上で生かすことができれば、面白いものができます。

ダンス経験のない学生が踊ることに対して感じる恥ずかしさ



身体表現ゼミ1期生による卒業公演にて

は半端なものではありません。身体で表現するという行為はまるごとの自分を曝すようなものですから、勇気が必要です。従って、創作を発表する際にも最初は2人組で相手にしか見えないように、次はクラスの半分くらいの人数の前で、最後にグループごとに全員の前でというように、徐々に見られることに慣れていくような工夫をします。学生の様子を見ながら、臨機応変に発表スタイルを変えていくのですが、ウケたり、褒められたりする体験を重ねると、恥ずかしがっていた学生がいつの間にか作品創りをリードするようになることも珍しくありません。

—社会人の方を対象にしたワークショップもされていますね。

人間健康学部のある堺市と関西大学の地域連携事業の一環として、主に50歳以上の堺市民を対象にした「身体表現・ダンスワークショップ」を行っています。アシスタントとして学生も加わり、皆さんには創作ダンスを月2回ペースで楽しんでいただいています。

■ダンスの創作を通じ、人と人はいかにつながるのか

—コンクールのための練習は厳しいのでは？

コンクールに向けて作品を練り上げるためには、学生同士が意見を戦わせ、試行錯誤を重ねながら長い混沌とした時期を乗り越えなければなりません。「楽しいことは楽ではない」というのは、私のゼミのキャッチフレーズなのですが、苦しい道のりを抜けて、舞台上上がり、パッと照明が入ったときに学生たちは大きな達成感と喜びを感じると思います。

—ダンスの創作を通じて、学生は成長できそうですね。

自己表現力、イメージ力、コミュニケーション力を高めることにつながるでしょう。言葉でうまくコミュニケーションが取れない場面でも、学生たちは身体を一緒に動かしながら互いに言いたいことを理解し、次第に相手のことを読み取る力が身に着くようになります。

人はどのように他者と関わるのか、他者を尊重しながら、自分の意見をどのように主張していくのか、他者と自分の個性をどのように受け入れていくかなどについて、ダンスの創作を通じて分析・考察を進めていきたいと考えています。数値的に測定できるものではないので、ワークショップの参加者の言葉を地道に拾い集めながら研究しています。

—ダンスといえば、近年、小学校や中学校で必修化されましたね。

教育の現場ではダンス指導に困った先生がヒップホップを習いに行き、それを子どもたちに教えるという話もよく聞きます。しかし、せっかくの機会ですので、ただ真似をさせるだけではなく、どのような表現の仕方が良いのかを子ども自身が考え、身体を動かしながら創作することの中に、学びがたくさんあることを指導者が認識すべきだと考えています。私のダンスの授業を受講する学生の多くは保健体育や小学校の教員を目指しています。彼らにはここで学んだことを生かして、皆で何かを創造することの喜びや貴さを子どもたちに伝えてほしいと思います。

■誰が踊っても、誰と踊っても、面白い

—ダンスにはいつ頃から興味を持たれたのですか？

私自身は幼稚園の頃から、モダンダンスを習っていました。実は宝塚音楽学校に入ろうと願書を取りに行ったこともあります。タカラジェンヌになる夢は諦めました。代わりにダンスをしっかりと学問として勉強しようと、お茶の水女子大学に当時できたばかりの舞踊教育学科に進みました。大学時代は身体表現の高みを目指して、能楽、フラメンコ、バレエなどいろいろと習って、表現を磨きました。ダンスに対する考え方が変わったのは、神戸大学大学院で学んでいたときに、教科教育のダンスの授業で、野球や柔道の選手が喜々として踊っている姿に出会い、すごいエネルギーを感じたからです。それまで、私にとってダンスは舞台できれいに踊るものだったのですが、「誰がやってもダンスは面白い。ダンスは多様な感性を育てる。みんなにダンスをしてほしい」と思うようになって、そこから私は創造性の教育としてのダンスの研究に向かい始めました。

—今後の抱負をお聞かせください。

男でも女でも、お年寄りでも子どもでも、障がいがあるかならうが、誰もが輝くインクルーシブなダンスの場を創りたい。インクルーシブは「すべてを含んだ」「包括的」という意味の言葉です。多様な身体条件や価値観を持つ人が分け隔てなくそれぞれに輝く舞台ができればいいですね。



研究最前線

ネットワークポリマーの研究

放熱性の高い エポキシ樹脂を開発

電子部品材料としての可能性を広げる

●化学生命工学部
原田 美由紀 准教授

身近な電子機器から航空・宇宙分野まで、幅広い先端工業分野で利用が進む高分子材料。大学4年次で、高分子材料の世界に出合った原田美由紀准教授は研究者の道に進み、結婚・出産後もエポキシ樹脂を中心としたネットワークポリマーの研究にまい進。エポキシ樹脂に熱伝導性の良さという新しい特性を付与することに成功し、電子部品材料としての用途を拡大する研究として大きな注目を集めている。

(原田准教授の共著・左から)「電子部品用 機能性粘着剤・接着剤」(2013年、シーエムシー出版) / 「放熱・高熱伝導材料、部品の開発と特性および熱対策技術」(2010年、技術情報協会) / 「最新版 エポキシ樹脂の高機能化～設計・配合・解析編～」(2008年、技術情報協会)▶



規則正しい構造を導入し、機能性を高める

—原田先生の高分子応用材料研究室では、どのような研究がされているのですか？

高分子には、熱可塑性高分子と熱硬化性高分子があります。熱可塑性高分子は、レジ袋でおなじみのポリエチレンなど、熱を加えると融けてしまう合成樹脂。熱硬化性高分子は、熱を加えると化学反応によって硬化する合成樹脂のことで、一度熱を加えて固めると、再度熱を加えても融けることはありません。私たちが研究しているのは熱硬化性高分子の方で、中でもエポキシ系ネットワークポリマー(エポキシ樹脂)を専門に扱っています。



—エポキシ樹脂は、どのようなところで使われていますか？

耐熱性と接着性に優れた特性があることから、以前から工業用の接着剤や塗料に利用されています。例えば、接着剤として高速道路の橋脚にも使用されています。また、絶縁性にも優れているため、ICチップを保護する封止材や電子部品の基板材など、電子部品材料としての用途が広がってきています。

—エポキシ樹脂のどのような研究に力を入れているのですか？

電子部品材料として期待される機能は、従来の接着剤で要求されていた機能だけに留まらず新たなものが必要になってきます。ICチップは動作すると熱を発生します。その熱を外部に放出させず、中にこもったままにしていると誤動作を起こします。そのため、電子部品材料には放熱性、すなわち高熱伝導性が求められます。ところが、通常のエポキシ樹脂は、熱伝導性が良くありません。これを改善するための研究に取り組んでいます。

—どのように熱伝導を良くするのですか？

絶縁性に優れた物質では、熱を伝えるのは主として分子振動によるので、分子の振動を途切れることなくうまく伝えるとい



原田准教授が開発した、高い放熱性を持つエポキシ樹脂

う特性を付与できれば熱伝導率を高めることができます。熱可塑性高分子では、結晶のように分子が規則正しく並んでいると、分子の振動を効率良く伝えられるので、熱伝導性が高くなることが知られています。だとしたら、エポキシ樹脂にも分子の規則正しい構造を作って固定化すれば熱伝導率が高くなるのではないかと考え試したところ、期待していた結果が表れました。

—狙った機能を持たせるように構造を設計したということですね。具体的にどのような実験を試されたのですか？

分子構造で表すと、エポキシ基が複数個付いている化合物をエポキシ樹脂といいます。ただし、エポキシ基が複数個付いているだけでは単なる低分子量のモノマーで、これに硬化剤等を混合して反応させるとモノマー同士がつながり合い、ネットワークポリマー(網目状高分子)になります。また、一方で液体のような流動性を持ちながら結晶に近い規則正しさも併せ持つ、液晶という状態を形成できるメソゲン基というものがあります。そこで、メソゲン基を導入したエポキシモノマーを合成し、そのモノマーの規則性を高めた状態でネットワークポリマーを作ったところ、放熱性を大幅に改善することに成功しました。

大学だから挑戦できる研究がある

—熱硬化性高分子の研究ですが、低分子モノマーの有機合成からトライしたということですね。

そのとおりです。私たちのような熱硬化性高分子の研究で行うのは、アルミケースなどでエポキシ樹脂と硬化剤を混ぜて、加熱によって反応させるといった実験が多く、反応条件を変化させたり、さまざまな添加物や充填剤を混ぜるなどの工夫をして新しい機能を導き出そうとします。しかし、放熱性を高めるためには、従来の実験方法では不十分。高分子ではなく低分子モノマーの化学構造を設計する段階から取り組まなければ、この課題を解決できないと考えました。しかし、普段私たちが扱う高分子量の樹脂に対して、モノマーは分子量が数百程度ですから、全く世界が違います。新たな勉強もたくさんしなければならませんでした。

—研究成果に対する反響はいかがでしたか？

かなり大きかったですね。いろいろなところから声をかけていただいて、講演も数多く行いました。また、企業との共同研究にも発展しました。エポキシ樹脂の研究をしている企業はたくさんありますが、モノマーの合成から始めるとなると、従来とは違う新たな研究方法を取り入れなければいけません。そのため、企業としてはなかなか手を出せなかったのではないのでしょうか。

私たちが今までにない機能を明らかにしたことで、この研究にマンパワーと費用を投資しても価値があると、企業が判断できる材料を示すことができました。この研究がきっかけで、世の中に役立つ製品の開発につながるかもしれません。すぐに実用化ができなかったとしても、この方向性で研究を行えば新しい芽が出てくるという結果を明らかにすることで、大学に期待されている役割を果たすことができたのではないかと思います。

社会との関連を確認すると研究が面白くなる

—研究を続けてこられて、どのような時にやりがいを感じますか？

遠い将来のことかも知れませんが、私たちの研究が社会と関連していることが感じられるようになって面白く感じ始めました。学生にも積極的に外部の講演会などに参加してもらい、産業界のトレンドに触れさせています。自分のテーマと実社会の接点を見付けられると、研究にも身が入ってきます。大学に高分子の研究室はたくさんありますが、私たちのように、はっきりと実用化を視野に入れている研究室は多くはないと思います。



▲活気ある高分子応用材料研究室

▲実験の指導をする原田准教授

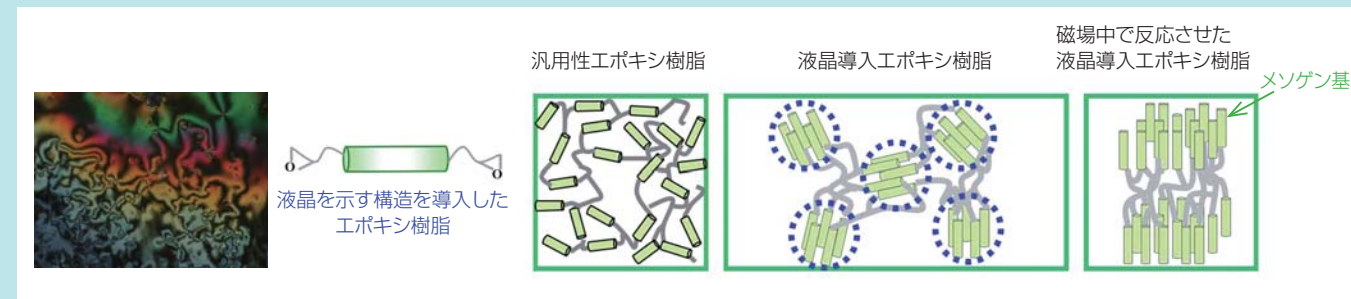
—研究に行き詰まり、解決するアイデアが出てこないような状況はどのように打開するのですか？

まず試すのは、異分野の考え方を勉強することです。異分野の常識が、私たちの分野では常識ではない場合がよくあります。既存の理論や常識にとらわれず、異分野での考え方を取り入れると、新しい発見につながる場合があります。液晶をエポキシのポリマーに導入したのも一つの事例と言えるかもしれません。少し離れた分野の発想を、自分の研究領域にいかにつなげて取り入れるか。これは、課題をブレイクスルーするための一つの方法だと思っています。

—今後の抱負をお願いします。

一番の目標は、やはり、現在の研究から生まれた新しい製品が社会に出ることです。また、ネットワークポリマーには、エポキシ以外にもフェノールなど他のものもあります。それぞれの材料に対して、同じように分子を規則正しく並べた構造を応用させることで、エポキシでは対応できない分野での可能性を感じています。新たな研究も展開していきたいですね。

●エポキシ樹脂の構造制御による高強靱・高熱伝導材料の開発



関西大学創立130周年記念事業

社会の要請に応える学園づくりを目指して



2016(平成28)年11月、関西大学は創立130周年を迎える。前身である関西法律学校が大阪の地に誕生したのは1886(明治19)年。「正義を権力より護れ」を建学の精神とし、その長い歴史の中で「学の実化」を学是に掲げて社会・市民の啓蒙と教育に取り組み続け、これまでに42万人以上の学生・生徒を社会に送り出してきた。

創立130周年の節目を迎えるにあたり、本学では、地域社会や世界に貢献できる教育・研究のより一層の充実を目指して、数々の記念事業を予定している。130周年を機に、新しい歴史の幕開けとして、これまで受け継がれてきた知と精神を確実に継承するとともに、教育、研究、学生サービスの更なる充実に努め、社会の要請に応える学園の創出に、一丸となって邁進していく。

基本方針

基本的に「ソフト中心のコンパクトな記念事業」を目指すこととする。また、本学は関西法律学校として、大阪で生まれ発展してきた大学であることを踏まえ、基本方針として次の3つのテーマを掲げる。

- ① **国際性**
(アジアの中核大学、ハブ大学)
社会から強く求められている、国際化に対応可能な人材を育成する。
- ② **知性と先進性**
(安全・安心、環境、健康に関する文理融合型プロジェクト)
人間健康学部、社会安全学部、東アジア文化研究科など、新たに設置した学部・研究科の特色を活かした事業を既設の学部との関連を持たせて実施し、大学全体のブランド力の向上を図る。
- ③ **歴史と伝統**
(泊園書院、市民の大学、ハブ大学としての地域連携・地域貢献)
本学構成員が建学の精神を再確認し、帰属意識の醸成を図る機会とする。
なお、この基本方針に基づき、本記念事業のコンセプトを「伝統への自信 未来への考動 ~『学縁』を世界に広げよう~」と定める。

大要

- 千里山キャンパスの狭隘解消のため、「知的創造空間」の創出と併せ、利便性・快適性を求めたアクセスの整備など、さまざまな取り組みを実践する。
- 「KUGF (Kansai University Global Frontier) プログラム」を開発・提供し、「グローバル教育推進奨学金・奨励金(仮称)」の創設を検討するなど、「次世代グローバルリーダー」の育成に努める。
- 産学官連携の新たな研究拠点「関西大学イノベーション創生センター」を設立し、最先端の研究装置・設備群を擁する日本有数の産学官連携・共同研究拠点を形成する。
- 「なにわ大阪」をキーワードに「関西大学なにわ大阪研究センター」を設立し、「総合科学」の観点から、その成果を国内外に発信する。
- 「関西大学『学縁』給付奨学金制度」の構築など在校生へのさまざまな支援事業に加え、校友会、教育後援会、併設校等とも連携した「オール関大」としての各種事業を実施する。

その他各種事業として予定している行事等

- 創立130周年記念式典の挙行(2016年11月4日に学内にて開催)
- 関西大学130年史料の刊行
- 創立130周年記念DVDの製作
- 記念植樹 など

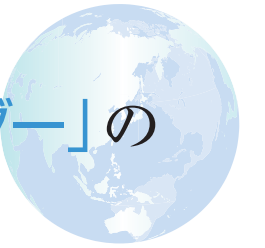
キャッチコピーおよびシンボルマークの選定

- ① **キャッチコピー**「この伝統を、超える未来を。」
- ② **シンボルマーク**



- ③ **選定趣旨**
キャッチコピーについては、130年の伝統への自信と未来への変革の決意を端的に表現している。また、シンボルマークについては、関西大学の象徴である「葦の葉」と紫紺カラーをシンプルにデザイン化し、未来に向けて発展する力強さを表現している。

共通教養科目に「次世代グローバルリーダー」の育成を目指した科目群を設置



関西大学では、次世代グローバルリーダーの育成に向け、2014年度から共通教養科目の中に国際化教育プログラムを開設した。「KUGF (Kansai University Global Frontier) プログラム」では、本学への留学生や本学から海外へ留学する学生を対象に、英語で行われる講義を42科目開講。内容は「防災・減災と復興」「食品科学&工学」「国際ビジネス&アントレプレナーシップ」「日本学」「言語教育&コミュニケーション」という5つのモジュールと、TOEFL®対策等の英語の基礎学力向上トレーニングや異文化対応能力を練達する「国際教養科目群」で構成されている。更に、今まで外国人留学生向けに開講されていた科目を、一定の基準を満たす一般学生にも受講対象を拡大した。

また、「国際協力サービスラーニングプログラム」では、他者への献身を第一義とする国際ボランティアを通じて、コンピテンシーを涵養できるよう設計されている。



本科目群は、学生が入学後の早い段階で交換留学や認定留学などを含めた学修計画の目標を立て、必要な語学力の増進とグローバル人材としての知識や経験を積んだうえで、外国語による専門科目受講や各種の国際プログラムに参加できるよう導くことを目的としている。海外でも活躍できるリーダーの育成に向け、大きく扉が開かれたこととなる。

関西大学が目指す「次世代グローバルリーダー」の能力

- 1 **専門的知識と技能**
自らの文化・歴史・伝統などに通じ、国内外で生起する問題に関心を寄せ、常に専門領域との関連で批判的に物事を考えることができる力
- 2 **グローバルビジネスなどに必要な高度の語学運用能力**
卓越した語学運用能力をもって、さまざまなビジネスシーンにおいて対等に交渉し、創造的な結論を導き出せる力
- 3 **コミュニケーション能力**
言葉の働きを十分理解し、確かな言語運用能力に基づいて、自らの意見を発信し、必要に応じて相手を説得することができる力
- 4 **問題解決能力および考動力**
国際社会におけるさまざまな課題に関する本質的な要因を分析し、専門知識を駆使して創造的に解決する力
- 5 **国際適応力および異文化理解力**
異文化の違いを踏まえつつ、相手の考え方を理解したり、これに共感できる力

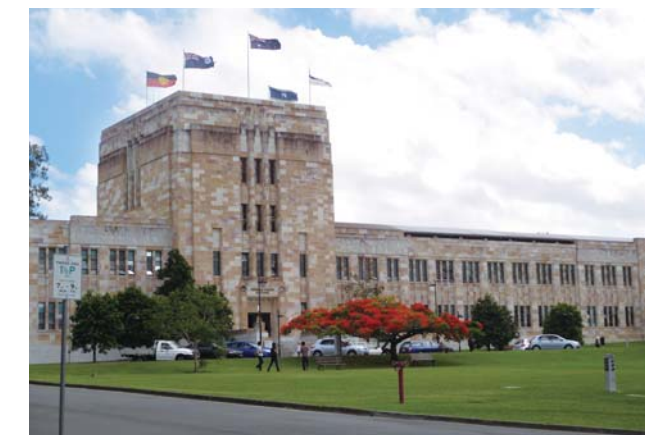
国際部・認定留学プログラム

オーストラリア・クイーンズランド大学でのグローバルキャリアアッププログラムが始動

関西大学国際部では、認定留学の新たなプログラムとして、オーストラリア・クイーンズランド大学との間でグローバルキャリアアッププログラム(GCUP)を開設した。

長い歴史と権威を誇るクイーンズランド大学は、オーストラリア国内でもトップクラスの学生が集まることで知られる名門校。GCUPは、将来グローバル展開を進める企業へ就職するためのスキルと経験を修得し、かけがえのない人間関係を構築するプログラムであり、10週または15週間の英語研修と2週間のビジネス研修、8週間の専門的職務経験を積むフルタイムのインターンシップで構成される。留学生はスパイラルアップ式に自らを進化させ、社会から必要とされる高い語学力と異文化理解力、行動力、判断力などの素養を身に付けることによってグ

ローバル人材として社会に貢献することが期待される。4月にはクイーンズランド大学担当者によるガイダンスも開催され、多くの学生が参加した。本プログラムに参加する学生は8月末から留学を開始する予定である。



オーストラリア国内でも有数の名門校・クイーンズランド大学

◎大阪府堺市との地域連携事業から誕生

アスリートのための「冷凍お餅『和ne チャージS』」

“ナレッジイノベーション アワード2013”でオーディエンス賞を受賞

2014年2月、持久力を求められるアスリートの栄養補給に適した「冷凍お餅『和neチャージS』(わんチャーじえす)」を、関西大学と堺市の和菓子店が開発した。これは、餅米に植物由来の不凍たんぱく質を加えることで、自然解凍しても作りたての柔らかな食感が楽しめる新しい機能性食品。スポーツをする人が遠征先や試合会場で手軽にエネルギーを摂取することができ、ランニング中でもおいしく食べられるとして、注目を集めている。



自然解凍でつきたての柔らかさを実現した「冷凍お餅『和neチャージS』」



▲「ナレッジイノベーション アワード2013」でプレゼンを行う河原教授

関西大学と堺市は2008年に地域連携協定を結び、さまざまな連携事業を行っている。その一環として「冷凍お餅」を開発したのは、化学生命工学部の河原秀久教授と、堺市の和菓子店「浜寺餅 河月堂」。

河原研究室は、遺伝子組み換え技術を使わずに、カイワレ大根由来の不凍たんぱく質を実用化することに世界で初めて成功した。この技術を用いることで、一度冷凍しても、自然解凍で作りたての柔らかな食感が楽しめる「冷凍お餅」が完成。長期保存も可能であり、アスリートはエネルギー効率の高い餅を、屋内外問わず手軽に摂取できる。



河原秀久教授

「冷凍お餅」はグランフロント大阪の知的創造拠点「ナレッジキャピタル」における、新しい価値創造を社会へ発信する祭典“ナレッジイノベーション アワード2013”にもエントリーされ、3月17日の最終選考会において、「モノ部門」のオーディエンス賞を勝ち取った。受賞は、7200票を超える一般からのウェブ投票によるもの。今後は、賞味期限の短い和菓子の海外輸出等への応用も期待されている。

商学部で実施されたネーミングコンテストにおいて、2人の学生のアイデアを基に『和neチャージS』と名付けられ、4月からアスリート向け商品として、河月堂で販売を開始した。1個50gで、プレーン味(税抜130円)、ハチミツ味(税抜140円)、きな粉味(税抜150円)の3種類。



(左から)ハチミツ味、きな粉味、プレーン味



自然解凍後も
まるでつきたて

冷凍保存可能



約1時間、
常温で自然解凍



まるでつきたてのように
もちもちな食感!

◎AR津波ハザードマップ

津波の恐怖を「見て」体感できるアプリを開発



「AR津波ハザードマップ」のアプリマーク▶



「AR津波ハザードマップ」の画面。(サンプル：堺市内の浸水深、避難経路) 地図上には防災情報と避難経路を、カメラ映像内には津波による浸水イメージや周囲の避難所情報、避難ビルの方向を矢印で表示する

津波の被害を最小限にとどめるためには、正しい防災の知識を身に付け、日ごろから津波に対する準備を行うことが必要だ。関西大学社会安全学部水災害研究室は、パシフィックコンサルタンツ株式会社および株式会社キャドセンターとの共同研究により、防災教育の教材用アプリケーション『AR津波ハザードマップ』を開発した。これは、拡張現実(AR)技術を用いることで、津波の浸水範囲や浸水深、避難所、避難ビル、避難経路等の防災情報をスマートフォンやタブレット等で可視化できるというもの。津波や洪水が起こった際の様子を知ってもらい、迅速な避難行動につなげることを狙いとしている。

アプリの画面越しに現在地の風景を見ると、想定される津波が浸水しているように見える。また、現在地ボタンをオフにすれば、現地へ行かずに仮想的な避難訓練をすることも可能。3月には、実証試験として大阪府堺市の避難訓練に用いられた。

現在の搭載データは堺市が公開している津波ハザードマップのみだが、他地域についても情報提供は可能であり、実用化に向けて大きな期待が寄せられている。

「関西・ふくしま大学生交流事業」報告会・交流イベント 関西と福島県の大学生が福島県の未来を考える



関西大学千里山キャンパスで行われた報告会

東日本大震災に伴う風評被害の払拭と、観光による地域活性化等を目的とする「平成25年度関西・ふくしま大学生交流事業」が実施された。この事業は、関西と福島県の大学生を対象に、互いの地域を知り、共に福島県の未来を考えるというもので、福島県が主催した。福島県からは6大学、関西からは関西大学を含む8大学の学生がそれぞれ参加した。

2月18日～21日には、関西の大学生20人が福島県を訪問。福島県の大学生20人と共に、鶴ヶ城や松川浦、農業総合センター等の視察を行い、交流を深めた。また、3月15日には、関西大

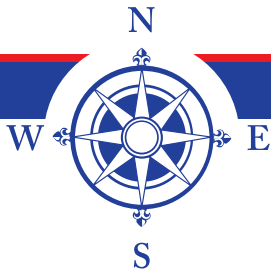
学千里山キャンパスにおいて報告会を開催。参加した学生は4グループに分かれ、「情報発信」「観光活性化」「若者交流」「交流基盤」をテーマに熱く語った。さらに翌16日には、伊丹空港で、福島県の今を見て、感じてもらう交流イベントが開催された。同イベントでは参加学生による「ふくしまの今」写真展および、福島県の農作物や工芸品等をPRする「ふくしま特産品無料配布」が行われ、会場は大いににぎわった。



「ふくしまの今」写真展



「ふくしま特産品無料配布」で福島県特産の農作物をPRする学生たち



堺キャンパスが「おおさか優良緑化賞奨励賞」を受賞



「第7回 おおさか優良緑化賞」表彰式(上段左端が管財局の重田勝紀局長)

大阪府が主催する「第7回おおさか優良緑化賞」において、大学の堺キャンパスが奨励賞を受賞した。この賞は、大阪府自然環境保全条例等に基づいてなされた緑化のうち、府内の都市環境の改善に貢献する緑化や、都市の魅力向上に資する緑化、新たな緑化手法のモデルとなる緑化等、特に優れた取り組みを表彰するもの。堺キャンパスは、地域の在来樹種を中心に多数の樹木が植栽されており、生物多様性にも寄与する可能性があること等が評価された。

臨床心理士資格認定試験に100%合格の快挙

2013年12月、公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会による平成25年度臨床心理士資格認定試験が実施され、関西大学臨床心理専門職大学院からは31人が受験。全体の合格率が62.4%の中、全員が合格を果たした。2014年1月25日にはレストラン「紫紺」で祝賀会が開かれ、臨床心理士としての活躍を誓い合い、大いに盛り上がった。



関西大学第一高等学校・第一中学校創立100周年を記念 平成26年度 年史資料展示室 企画展を開催

関西大学年史資料展示室では、4月1日より、『Start for Next—関西大学第一高等学校・第一中学校創立100周年記念展』を開催中。関西甲種商業学校に始まる第一高等学校・第一中学校の100年に及ぶ歴史を、さまざまなトピックを通じて振り返る。さらに創立100周年記念式典の様子も紹介し、新たな世紀を歩み始めた両校の将来を展望している。



【開館時間】…午前10時～午後4時
【場 所】…千里山キャンパス簡文館1階
【休 館 日】…日曜・祝日・大学が定めた休日
【入 館 料】…無料

町田樹さんが世界選手権で銀メダル 4月21日にはトップスケーターによる応援感謝会を開催



町田 樹さん

3月26日～30日にさいたまスーパーアリーナで開催された世界フィギュアスケート選手権大会に、体育会アイススケート部の町田樹さん(文4)が出場し、万感の思いを込めた演技で銀メダルに輝いた。初出場の重圧に耐え、自己ベストを16.88点も塗り替えての快挙だった。

また、3月12日～16日にブルガリアで開催された世界ジュニアフィギュアスケート選手権大会には、次世代のエースと期待される高等部の宮原知子さん(1年)が出場。女子シングル4位入賞の好成績を収めた。

4月21日には、千里山キャンパスにて、学長表彰式と応援感謝会が開かれ、高橋大輔さん、織田信成さん(ともに文学研究科M2)、町田さんは、楠見晴重学長からこれまでの功績を称えられ学長表彰が授与された。その後のトークイベントでは、フィギュアスケートにまつわるエピソードや苦労話など、普段聞くことができない3人のトークで盛り上がった。最後に3人から、学生ら1,200人の聴衆に向けて、日ごろの応援に対し感謝の意が述べられた。



楠見晴重学長(右)から学長表彰を授与される高橋大輔さん▶



トークイベントの様子(左から 町田樹さん、織田信成さん、高橋大輔さん)

高等部がスーパーグローバルハイスクール指定校に決定

関西大学高等部が、文部科学省から「平成26年度スーパーグローバルハイスクール(SGH)」の指定を受けた。SGHとは高等学校等において、グローバル・リーダー育成に資する教育を通して、社会課題に対する関心と深い教養、コミュニケーション能力、問題解決力等の国際的素養を身に付け、将来、国際的に活躍できるグローバル・リーダーの育成を図ることを目的とした事業で、全国の高等学校から56校(国立4校、公立34校、私立18校)が指定された。